

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、一般質問を開始させていただきます。

出だしの言葉を考えてきたんですけど、ちょっともう5時までには終わりますという頭のことを考えていたんですけども、言えなくなりまして、きょうはホワイトデーということで、多分皆さん方ももらった分を返さなきゃいけないので、早く帰りたい方もいらっしゃるかもしれません。そのホワイトデーということなんですけれども、ホワイトデーというのは、我々の小さいころはなかったですね。いつの間にか出てきた。これはお菓子業界が企画してやったと。でも、作り出された企画でも年間数百億円の売り上げを立てている。それがもうずうっと続いて、多分この後ずうっと続くでしょう。素晴らしい企画だと思います。これはもうその菓子業界の企画の勝利だと思います。

一般質問があっけていますけれども、この武雄だけじゃなくてよその議会も一般質問がっております。今回、私が県内よその議会3名から武雄のことを教えてくれ、一般質問で使うからと。ですから、佐賀県内のほかの自治体で、多分3カ所で武雄の例を言われて それ以上かもしれません、私が知らない部分で。質問があっけています。県外から2名、私のもとに内容を教えてくれというふうな連絡がありました。県外でも少なくとも2議会は この武雄の例をとらえてやっけています。

それぐらい、今この武雄はある意味で佐賀県のオピニオンリーダーとなっております。リーダーというのは、やっぱりそこでとまっちゃいけない、前進しなきゃいけない、停滞しなきゃいけないと。常に進まなきゃいけない。まず最初の行政改革であります。この行政改革も武雄はとまっちゃいけない、進めなきゃいけない、オピニオンリーダーにならなきゃいけない、そういう形で思っております。

それは、まず第一に、今回政府が今国会に出している新たな再建法案、これはもう皆さん御案内のとおり、連結指標になるわけですね。夕張市の例を先ほど4番議員が言われました。連結指標、それは一般会計だけの公債費比率だけではなくて、持っている公営企業、そちらのすべての起債、すべての経営状態を含めて判断すると、そういうふうな形の指標が今国会に出て、多分通過するんじゃないかということであります。すべての公営企業、第三セクターも含めてであります。今回は、病院、水道、競輪、そういった公営企業について、多分そのままその連結指標になるということで、お伺いをしたいと思います。

先日、その公営企業の起債残高は175億円という説明がありました。市長が発言された中で、これはちょっと場面が違いますけれども、この議会内の一般質問の答えで、市役所が前面に出たプロジェクトはなかなかうまくいかない。これは何のときだったかちょっと忘れましたが、そういうふうな話を言われました。

それで、まず市民病院からお伺いしたいと思います。市民病院の話は、先ほど、それこそ4番議員が詳しく、そして22番議員、いろんな方が市民病院について話されてきました。こ

れもまた市長の答弁の中に、自治体病院が危機的状況にあるのは認識していると、そういうような話がありました。現在、武雄はコンサルタントに頼んで再生計画を再生といいますが、健全化計画を立てて、そのコンサルの答申をもらっていらっしゃいます。読ませていただきました。いろんなことが書いてありました。例えば、今の位置だとこれ以上望めない、別のいいところに移して経営したら、7年後には黒字になるというふうなことも出ております。

まず第一の質問ですけれども、この経営診断委託、このとおりやれば本当に大丈夫なのか。この国立病院を市民病院に引き受ける際、旧武雄市の議会であった説明では、7年後には黒字になるということでありました。コンサルの言うとおりであったら今ごろ大黒字でやっていたと思います。ところが、今はまだそういう状況になく、さらにいろんな更新、例えば、委託料がよそよりも数%高い、もう一つは、ある部署の人件費はよそよりも5%以上高いとか、いろんな要素が絡んでいると思います。

先ほど言いました繰り返しになります。経営診断委託で7年後黒字になるということなんですけれども、これはこのまま信じていいのかということは、なかなか言えないんですけれども、この経営診断でやっていることで間違いなのか、まず第一にこれをお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

木寺市民病院事務長

木寺市民病院事務長〔登壇〕

お答えを申し上げたいと思います。

まず、国の方から移譲を受けました経過等でお話ございましたけれども、国のときの当初の計画によりますと、条件がいろいろございまして、その当時の医療の環境、そういうのがまだまだ右肩上がりの状況でございました。そういうことからいたしますと、平成14年、16年、18年と、2年ごとに診療報酬等の改定があるわけですけれども、マイナス2.7%、18年度に至っては3.16%のマイナスということで推移をいたしまして、当時の状況から合わせますと約10%程度のマイナスになっております。

それから、国の状況のときには官庁会計方式でされておりましたけれども、単年度で3億円とか4億円、そういった赤字が計上されておりました。そういった点で、現在では昨年度末で533,000千円の累積赤字がありますけれども、減価償却を含んだところの赤字ということでありまして、現金ベースでは何とか浮いているという状態であります。

それから、平成18年度に医師が4名ほど減りまして、そのときの経営の悪化条件というのが特に懸念をされたわけでありまして、そのときに、この調子で行くと4億円程度の赤字が出るんじゃないかと、そういうことでいたしましたけれども、職員、医師を中心に頑張っております。それから、経営コンサルタントの助言を受けて、改善できるものは即時着手すると

いう形になっておりまして、最終的な見込みとしては、1億円以内を目指して今やっているような状況です。そういった点からすると、赤字の体質ではありますが、かなり善戦をしている。そういったことで、もし開院をいたしましたときの条件が同じであれば、今の経営は既に黒字に転換をしているというふうに思っております。

ただ、今回コンサルタントが一応外部への進出をねらったところのシミュレーションをいたしましたけれども、これについてはある条件がございまして、用地費を除くとか、そういったのがありますので、そしてまた、医療環境が現状のままということ、そして、さらに条件として、外来の患者数、あるいは入院の患者数、そういうのを設定いたしておりますので、その条件でいけば、そのとおりだろうというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今承りました。ただ、こういう中で、またいろんな要素、医師不足、そしてまた、今一番言われる看護師不足、そういう要因が入ってきます。どういう要因が途中で入ってくるかわからない。そして、先ほど言われましたその土地、動いたときの建設費、多々莫大なものがあると思います。例えば、黒字自治体の人件費は医療収入に対して平均38%ですけれども、今現在は武雄は57%と相当高いですね。そういうのもいろいろ加味したら、やっぱり先々、コンサルタントが最後まで責任を持てばいいですね。でも、なかなか持っていただけない。そういう中で、今全国の自治体病院の動きはどうなのか。全適というのが先ほどありました。そういういろんな行革、内部改革ももちろん必要でしょうけれども、今大きな動きというのは、もう民間委託ですね。指定管理者制度もできました、民間委託というのもあります。ただ、民間委託にしてくれということではありません。今度の行革緊急プログラムというやつをつくられていると思います。その中でも、民間委託というのを視野に入れて動いていただきたいというふうに思っております。なぜかという、これはよその自治体ももうほとんどそれで動いているわけですね。例えば、福岡県の県立病院、もう全部売却するというふうなことで出ております。石巻市の病院もそうです。八尾市。全国で16病院がもう民に行って、既に4が検討をされていると、そういう状況にあります。売却といいますが民間委託、指定管理者も視野に入れて、何でも今ここで言うのかと。何でも売りどきというのがあるわけですね。全国に今自治体病院というのは多くあります。そこががばっと一緒に売りに走ったら、買う方も大変なんですよ。まだ売りに出ている途中であります。売りに出ている取っかかりのときですね、どこでも、もう売り　売りという言葉はいかんですね。どこでも売却に走ったら、引き受ける側もよりどりみどりのわけですね。そうなる前と言うぎいかんばってんが、早いうちにそういうふうな動きも一つはあるんじゃないかと。選択肢の一つがあるんじゃないか。株でも一緒に、だれでも売っていたら株価は下がっすよね。売らんけんが

としていて、ちょびっとしとくぎ、余計株の上がっていくわけですよ。そういう中でも、そういうふうな方向性を選択肢に入れるということを緊急プログラムの中でも検討していただきたい。それは市長、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

古賀副市長

古賀副市長〔登壇〕

御指摘のように、今市民病院、公立病院につきましては、いろんな方策がとられております。動きが激しくなってきたおるんじゃないかと思えます。今おっしゃいましたように、民営化というか、民間への移譲、これも一つの方法です。また、公の施設の管理委託という形で公設民営、そういうことも取り上げられております。先ほどの全部適用というのも一つの方法だと思えますけど、当武雄市民病院としましても、間もなく10年目を迎えます。それを一つの区切りとして、今申し上げました全部適用、そしてまた、公設民営化、また、民間委託等についても大いに研究をして、実現に向けて努力をしていきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ここで民にすぐ移してくれということではなくて、そういう選択肢ももう既に研究、動きもしなきゃいけないということでもあります。先ほど言いました、何事にも売りどきというのが 売りどきって、また言っちゃいましたけれども、そういうタイミングがあると思えます。それはさっき言った株の例、そういう例もありますので、一つの選択肢として考えていただきたいと思えます。

急いで行きます。次、水道企業であります。水道に関しては、前回、水道料金をどうやって下げるのかというふうな形で、やっぱり自分のところでいろんな努力をしても下げられる限度がある。そういう中で、伊万里市に売ったらどうかというふうな意見も提案しました。でも、なかなか難しいということで、どうなるかわかりませんが、外に売るとするのは、まだ先の課題ということであろうと思えます。

そういう中で、今全国の自治体の、これは総務省の自治財政局というところが発表した分で、平成15年に地方公営企業決算で見ますと、水道事業でもう既に448事業所が経常赤字を出しています。その金額は1,335億円らしいです。その中で、先ほども病院の例で言いました。黒字を出しているところの平均人件費は13%、武雄はそれよりもちょっと高いですね。そういう形で動いております。

そういう中で、今全国の赤字もしくは値段を下げたいけどなかなか下げられない、そしてもう一つは、全国で今一番困っているのは、水道の施設をつくったのが昭和50年代に集中している。それが昭和50年で、今30年ほぼたちました。全国どこでも機械の更新時期なんです。

いろんな例がありますけど、全国のほとんどは、そういう機械の更新時期に当たって、それで物すごく悩んでいらっやいます。そういう中で、いろんな選択肢をとられています。先ほどのこの議会でも水道料の値下げをお願いしますと、そういう話が出ました。

先ほど答弁もされていましたが、値下げをするのは何でも簡単なわけですね。値下げをするにはその収支のことを考えないと、何かを下げるということは収入が下がるから、やっぱり何かを上げなきゃいけない。何かをする分をやめなきゃいけない。やっぱりするには減らさなきゃ、だから、何かその方策を見つけないといけない。

これはもう、先ほどの病院経営と一緒にです。民間委託という手も残っております。水道企業法が改正されて、民間委託ができるようになりました。これはまだ途中なんですけれども、今一つ注目しているのが、日本政策投資銀行というのがあるんですね、政府100%出資のやつで。日本政策投資銀行が、香川県の善通寺市の上水道事業を民間委託しようという形で、コンサルみたいな形で動かしております。この日本政策投資銀行というのは、民間会社が地方公共団体からそういう公営企業を引き受けるときに、その新しい民間の会社に50%まで融資しますよと。なおかつその新会社の50%の資本をうちが持ちましよう。50%出していいですよというふうになっているらしいです。先ほど言いました善通寺市の人口は3万数千人、旧武雄市と余り変わらないところですね。そういうふうにして動いています。

その日本政策投資銀行がきちんと調べて出した結果、25年後もし公営でそのままやっていたらどうなるか、25年後には成り立たないという結果が出ております。もちろん初期投資も含めてですね、成り立っていないと。半官半民でやった場合は、21年後には少々の赤字で済むだろうと。民でそうやってした場合、7年後には黒字でしっかりできると。これも一つの選択方法だと思います。水道料金を下げるといのは本当に大変なことだと思います。やっぱり下げたら何かを犠牲にしなきゃいけないところが必ず出てくる。そうならないうちの、さっき言いました病院と一緒に選択肢の一つとして、そういう民間移譲も考えられるんじゃないかというふうに思いますけれども、まず水道部長、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

伊藤水道部長

伊藤水道部長〔登壇〕

水道事業につきましては、合併前の武雄市の水道部におきまして本格的な民営化というものについては、少し民間の方と議論をされてきた経過があります。これについては、前任の部長から十分検討をしてくれということでの引き継ぎを受けているところでございますけれども、合併をしまして、山内水道の浄水場を含めてすべて武雄市に引き継いだと。維持管理をする職員が片方片方で、どうしても全体的に把握ができていない状況下に現段階であります。こういう段階で仮に民間委託をしたとしても、半官半民で行くにしても、これは業者の皆さんと話すにもなかなか話しにくいだろうということも含めて、今すぐの時点ということ

については、若干考えにくいのかなというのが今現在の考えであります。当然、今牟田議員がおっしゃられておることについては、将来的な視野としては頭に入れて動いているところでございます。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

確かに業者には話しぶらいと思います。でも、調べたら善通寺市も全く一緒なんですね。話しにくいと思っているのはこっちサイドで、向こうはひょっとして門戸を広げて待っているかもしれない。というのは、やっぱりもう既に大手の商社とかは動いているわけですね。丸紅しかり、いろんな大手も動いております。四国は四国電力がもうやっていいって言っているわけですね、新しい会社をつくって。やっていいというか、まだ途中なんですけれども、そういうふうな流れがあるんですね。やっぱり時代の風ば受けとめんぎいかんわけですよ。

そういう中で、やっぱり一番心配されるのは水の安全性、そして、本当に供給できるのかというところが一番肝心なところだと思いますけれども、それもきちんと入れた上で、さすが日本政策投資銀行さん、そこまで考えた上でのレポートが出ていますね。だから、そういうのも含めた上で、きちんと将来の先ほど言いました選択肢の一つとして考えていただきたい。これもさっき言ったような売りどきがありますし、この水道事業はまだ善通寺市も途中です。武雄がもしこれを先にやったら、水道事業の日本の大目標になると思います。水道事業はほとんどそうやって、さっき言ったようにほとんどの自治体が機械更新というところになりますので。ですから、それも一つの選択肢に入れていただきたいと思いますが、いかが思われますか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

水道事業の民営化は、牟田議員の指摘で初めて知りました。時代がここまで業務的によかですか、ちょっと答弁させてもらって。ただ私が思うのは、水道というのは唯一のライフラインである、これは地方独占企業なんですね。だから、本当にそれを任せ切れる企業体が出るかどうか。やっぱり企業である以上は、そこで利益を追求されるということになったときに、果たしてこの武雄の水道事業がそれを円滑に移行できるかどうかというのは、やや不安な面で聞いておりました。しかし、いろんな例を、私自身もアンテナを高くして、また善通寺市にも日本政策投資銀行にも聞いてみたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

宮本議員、質問とかしよるときに私語は慎んでください。25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今病院、水道、次に民間委託ということで、これはやっぱり背景があるわけですね。その背景というのは何ぞやと。例えばこの前、先ほど松尾議員さんから、武雄市行政改革市民会議からの提言書について、例の議員を20人にしたらどうかということですね、出されました。そういう中で、定数 議員は言われるように、市役所の職員さんも定数でやってくれて言っていますけども、これはもう前に言いました。

今武雄の規模の基準財政需要額で、交付税で見てくれる職員さんは306人なんですね。306人分は交付税でお金 coming しているわけですね。それ以上は一般会計からお金を出している。だから、その部分を減らせば 減らせばという言葉はいけませんけれども、先ほど言った民営化でその分きちんと定数管理できれば、その分がますますキャッシュフローで残ってくると。キャッシュフローで残ればどうなるかということ、何事も、これも先ほど市長の前の答弁でありました、投資というのができるようになるわけですね。そういう意味も含めて、民間委託も視野に入れたらどうかということで質問を何回か投げかけました。

今現在は400数十人の職員さんがいます。これが民間委託とかなんかをしていって、計画では100人ですから、430人か440人、最終的には10年後は330人ぐらいになりますよね。330人ぐらいだったですよ、多分。それでも30人多いわけですね。30人分の人件費というのはどうなるかということ、30人分の人件費って7,000千円掛けるの30人、210,000千円のキャッシュフローができる。投資的経費に使えるということで、そういうのができるんじゃないかということで、そういうのも視野に入れてやっていただきたいと思っております。

ちょっと駆け足で行きますが、次に競輪事業でありますけれども、これはまず最初に聞いた方がいいですね。競輪事業は今基金を取り崩してやっています。前までの常識は、基金を取り崩してふるさとダービーをやってお金をがばっとためて、また赤字でそれを取り崩してまたやるというふうなことが続いていました。現在漏れ聞く話だと、ふるさとダービーでさえも、もう基金はなかなかためられない。経費もいっぱいかかるし、売り上げは下がって経費は多くなると、そういうこともよく耳にします。今基金を取り崩してはいますが、大体基金がなくなるのは何年後ぐらいかということのをまず把握したいので、お聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

基金がなくなるのは何年後ぐらいかということでございますけれども、これについては、何年後になくなるということは今お答え申し上げられません。それで、状況を御報告申し上げ

げますと、平成17年度の競輪事業基金の残高が530,000千円でございます。平成17年末です。平成18年度は当初230,000千円の基金の取り崩しを計画いたしておりましたけれども、記念競輪の売り上げのアップ、それから、前年度繰越金等によりまして、今年度は基金取り崩しをしなくて済むという見込みを立てております。それから、19年度でございますが、当初予算では1億円の基金の取り崩しをお願いいたしておりますが、平成18年度の繰越金等を勘案いたしますと、19年度におきましても、多額の基金の取り崩しというのは回避できるんじゃないかと思っております。それから、平成20年度は発売機等のリース料が完済をすることで、約1億円程度の収支改善が望めるという状況になっております。

このため、車券売り上げが現状の売り上げで推移するという仮定いたしまして、ここ二、三年は多額の基金の取り崩しがなくて運営ができるということで見込んでおります。ただ、入場者の減とか車券売り上げの減というのは続いておりますので、今後新規のサテライトの開設等による収益の確保、それから、経費の削減等によりまして健全経営に努めていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今回、競輪に関してはいろんな提言がなされました。松尾議員によるパッカー車につけたらどうかとか、あと、上田議員による、そういうアマチュアバンドのイベントということで出てまいりました。売り上げ自体を見ると、やっぱりずうっと車券売り上げはそうやって単価が下がっているんですね。そういうふうなことを何とかクリアしなきゃいけない。やっぱりカンフル剤、もちろんいろんなイベントをやっていながら、カンフル剂的なもので大幅に収支するものをしていかなきゃいけないと思います。

先ほどまで、私は民に委託を選択肢に入れてくれということで言っていましたが、今度の競輪の場合は官民協力してできないものかと。今武雄ではやっているところを三つ言ってくれて市民の方に聞くと、うーんと言いながら三つ言われるわけですね。一つは新しくできたパチンコ屋さん、もう一つはボウリング場の近くのアそこら辺ですね。もう一つはやっぱりゆめタウンなんですね。ゆめタウンはどこにあるのか、競輪場のすぐそばじゃないですか。例えばゆめタウンさんとかと共同して、ゆめタウンさんからずうっと、あそこは200メートルちょっとでもう競輪場なんですね。

湘南ダービーって行かれたことありますか、平塚競輪ですね。あそこは、聞いたら若者たちのデートの場所になっているわけですね。マクドナルドはある、ケンタッキーはある、いろんなレストランはある、近くにいろんなアミューズメントはあります。これは普通の人でも入れるわけですよ。例えば飯の話、そういう近くに、多分私が聞いた中ですけれども、武雄で三つはやっているところがあると。ゆめタウンさん自体も佐賀に大きいのをつくる。そう

いうあれを言うたら、武雄のゆめタウンさんは、小さいけど坪当たりの売り上げは全国でもトップクラスらしいですね。そういうところと共同して、例えば、向こう側の駐車場のところにシネマコンプレックスかなんかをずうっとつくっていただいて、その延長線上に競輪場を置くと。新しいファンの獲得と言いながら、多分難しいと思いますよ。だから、そういうふうな延長線上で民と官が共同してやっていくと。例えばその中の一つで、さっき言ったゆめタウンさんと共同してやって、これはもう向こうの考え方次第ですから、そういうこともあるよということを行っているんですね。

あとは、例えば、あそこは清香奨学会さんの土地が含まれています。清香奨学会さんは中国とつながりがあります。アマチュアバンドという話がありましたけれども、その中国の関係される方もそこで呼んで、中国雑技団ではないですが、何でしたっけ、あの13人……（「女子十二楽坊」と呼ぶ者あり）そう、そういうのですね。いろんなのが考えられるわけですね。日中友好でそのままがばいばあちゃんが使えるわけですよ。もちろん、あそこは中国に限らずいろんなところとつき合いがあられますので、そういうふうな拠点にもなるわけですね。だから、官で例えばアマチュアバンドコンサートもいい、いろんな宣伝もいい、そういうときにやっぱり両方組んで、組めるところを探して、新しいファンの方　今までのファンももちろん大切ですけども、そういう新しいファンの獲得、そして、ファン層の獲得をするときには、やっぱりそういうのが必要になってくるんじゃないか。駐車場がそれをやったら足りませんと言うけど、足りっですよ。今の入場者数だったら余裕ですね。そういうところを官民一緒になって、裏側のところを駐車場にしたら、ゆめタウンさんも喜ぶ、例えばシネマコンプレックスなんてできたら、もう市民が喜ぶますよね。映画館がこの近くにどこにありますか。こがん言い方すっげいかなばってんですよ。

やっぱりそういうふうな官民、さっきまでは民間移譲、委託、指定管理者ということでした。今度の競輪に関しては、官民共同してできないものかということをお伺いしますし、一つだけ言いますと、競輪事業で官が絶対やらなきゃいけない仕事、公営ギャンブルで官が絶対やらなきゃいけない仕事というのは車券の作成、車券を作成するのは官がやらなきゃいけないんですね。それ以外は民がしていいわけですよ。まあ一つの例としてですね。

ちょっと長くなりましたが、質問に入りますけれども、その競輪事業に関しては、官民共同という考えはないのか、これをお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は質問を聞きながら、2点思い浮かぶことがありました。それは、ベガルタ仙台であります。あそこは地下鉄の一番終末駅から歩くのに450メートルぐらいあるわけですね。そこは何があるかというぎんた、ずうっとショッピングモールと、上が駐車場になっとるわけで

すね。そういう意味で、アプローチですよ。何というですか、日本語は。（「コンコース」と呼ぶ者あり）まあ道ですよ。そういうことで、まずそれが一つ参考になるなど。

それと、もう一つが、私は東京は嫌いですが、東京の人と話をしている、この土地から幾ら収益が上がるんだという話を必ずされます。そうなってくると、あそこの今の駐車場をそういう民間に、例えば、ゆめタウンさんとかに低利で貸すことによって、そこで収益が上がると。だから、歩きながらショッピングモールがあって、例えば上が駐車場であるということになると、土地に収益性が増すわけですね。だから、そういうことで、私は、これは事業者の関係もありますけれども、非常にいい案を聞いたというふうに思っております。

その上で、競輪の中身そのものを官民共同というのは、ちょっとまだ考えが及びませんが、それに至るまでのあの200数十メートルの道については、本当にそれはそのとおりだというふうに思いました。ほかに参考例があるかないかも含めて検討を開始したいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今先ほど、繰り返しになりますけれども、こういうふうな民に委託はどうしたら、官民一緒にしたらどうかという、それは、すべてはやっぱり先ほど檀上でも言いました、今武雄はオピニオンリーダーになってきている。多分よそから見られていると思います。武雄は大変注目されている。私がさっき言っただけで、聞いただけで全国から聞きたいと連絡が来る。私はブログをやつをやっているんですけども、ホームページをやっているんですけども、メールが来ますね。比率でいうと、7割県内、3割県外、九州外はその中の1割、やっぱり興味を持たれているわけですね。多分、市長のブログはもっと来ていると思います。だから、そういう形で武雄は注目されている。その中で、いろんな手法を打っていかなくちゃいけない。これは補足的な、余力というんですか、今がばいばあちゃんでも視察ががばっと来ると、そういうのも視察ががばって来る。これは余力ですよ、そういうのも考えられると思います。

これを同じような形で、定数のことは12月議会で私、若干述べさせていただきました。先ほどの基準財政の交付税の算定も述べさせていただきました。執行部の答弁は、なかなか急に減らすというのは難しいと。ただ、職員さんの質の向上に向かいたいという形で市長は答弁なされました。質の向上ということをおっしゃいましたので、行革の中で、もちろん質は高いと思います。それなりに選ばれた方がこの市役所にいらっしゃっているのです。

ただ、何点かうーんと思うところを、行革の中で指摘といいますか、ちょっと述べさせていただきますけれども、私が初めて議員になったとき、選挙に出るとき、選挙の立候補者説

明会というのがあるわけですね。説明を受けたとき、説明を5時間やられるわけですね。全部読まれるわけですよ。今はもう1時間ちょっとだと思っただけですけども、全部説明を言われるんですね。やっぱり皆さん方は忙しい身でもあり、そして、時給も高い方であります。いろんな説明とかはもっと簡潔にできないものかと。2時間ある会議で1時間半説明してほか何かないですかというのと、もったいないですよ。やっぱり要点要点をきちんと述べて、あと会議するとき、相手は子供じゃないんですから、読めばわかるわけですね。一々読んでやらなくても要点だけ述べればわかる。そういうことができないものか。そしたら、時間短縮にもっとつながると思っただけですよ。その辺のところはいかななものかというのと、多分時間短縮になると思います。で、1点。

もう一点、例えば、この前こういうのがありました。武雄のエポカル、図書館で、武雄の陶磁器展がありました。これは物すごい内容の濃い陶磁器展で、市内、市外、県内、県外からもいらっやっていました。ところが、そういう中で、その一番やっている最中に休みなわけですね、2月の連休のときに。観光でこうやって頑張ろうってしているときに、せっかくすごい、例えば、中島宏先生とか、もう物すごい名前の人たちが出されて、一堂にあるわけですね。武雄の焼き物が一堂に見れるというすばらしい企画があっていたんですよ。そういう中でやっているけど、それは武雄の観光に物すごくプラスになると思うけど、肝心の連休、開催中の一番人が集まる連休のときは休みだったと。理由聞いたら、図書館の本のいろんな入れかえとか整備で休まざるを得なかったと言われるけど、図書館の方と展示場が別れているわけですね。ここからこっちは行っちゃいけませんけど、こっちはいいですよというぐらい、ちょっと考えれば言えると思っただけですよ。だから、そういう形で、市長が12月議会のときに私の質問で答弁された、質の向上という部分を言われました。確かに質はいいと思います。だから、そういう形での今言いました職員さんの質の向上という部分はどのように考えられるのか、これをお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

質問に沿って、質の向上について述べたいと思います。

まず一つ、会議時間です。私も初めて武雄市長になったときに、会議の多さと会議の時間、もうびっくりしました。これはもう執務できんぞということで、まず会議を減らそう会議をつくらうかなと思うぐらい会議が多かった。それで、会議の数をまず減らす。その上で私が、あるいは両副市長が出席する会議については、要点のみパワーポイント、最大でも45分間、説明は15分、質疑応答を長く取るということで、大分職員の皆さんの意識が変わってきたというふうに思っております。市長と語る会、あるいは私が関連することで市民と接するときも、職員の皆さんたちはそういうふうをお願いしております。その上で、先ほどのプレゼ

ンテーション能力というんですかね、提案能力ですね。これの向上をもう少し図るべきだというふうに思っております。質は高いと思います。

その上で、先ほどのエポカル武雄の話が出ました。全く議員と同感であります。私も、観光客の皆さんからあそこに行ったら閉まっちゃったと。これは宇宙科学館もそうなんです。だから、休むべきときに休むのは仕方ないとしても、連休とかお休みのときとか、休むべきじゃないというふうに思っております。これが私は武雄のこれからのもてなしだと思いますし、現にツタヤさんとか24時間365日でしょんさあわけですね。民にできて官ができないことはないと思います。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

この行革についていろいろ提言させていただきましたけれども、ぜひ今後の武雄の向上のためにつなげていってほしいと思います。

では、次の観光について質問させていただきます。

観光については、もちろんさっきのがばい効果、いろんな議員が質問されました。私はもうこのがばい効果は出ていると思います。そして、12月議会に質問しましたがばいばあちゃんが一番の旬は1月4日ですよ。放送が終わったらだんだん鮮度が落ちてきますというふうな発言をしましたけれども、これは私の間違いでした。ところがところが、まだまだ鮮度はすごい保たれているみたいですね。というのが、私はちょっと見なかったんですけど、「スマステ」とかいろんなメディア、そして各種のメディアにどんどん取り上げて、旬が終わるところか、旬は続いております。そして、第2弾が発表されるまでずうっとこれは続くんじゃないかと思います。

もちろん、そのがばい効果だけで市の目標である今年間20数万人の宿泊客を年間50万人まで持っていくと。がばいだけじゃなかなか厳しいかもしれません。ただ、そのがばいというのを生かすにも、やっぱり先ほど、ずうっと官民共同じゃないですけども、三つのいろんな団体が、もちろん観光課、市役所、支所を含めた市役所ですね、観光協会、そして、一番恩威の受け手である例えば旅館業の方とか、そういう携わられるこの三つ、1月4日以降この市の動き、観光協会、一番恩威を受ける旅館さんの動き、がばい関連でどうだったのかと。

きょうは午前中、物すごくがっかりした発言のあったわけですね。今議会一番のがっかりした発言やったとばってんが、市長がおっしゃった、嬉野からとかよその市からお礼の来たというとは、物すごくがっかりですね。がばいばあちゃんばして、よその市がもうかりよっというのは、私は本当のがっかりしました。やっぱり武雄の者がもうけて、市長、こいしこふえましたって。よそから来るというのは、私に言わせればちょっとがっかりしました。嬉

野が恩威を被っている。もちろん被っていいですよ、広域的な考えでいけば。でも、やっぱり一番恩威を被らなきゃいけない武雄市内からもっと声が出なきゃいけないんじゃないかと。きっかけは市長が、市がつくってくれた。それを生かすのは民だと思います。そういうのがなかなか、よその部分だけ耳に入ってきて地元の部分が入ってこないのかもしれないけれども、先ほど市の動きをおっしゃいました。台湾の方とか言われましたけれども、1月4日以降大まかにどのようなものだったのか、これをお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

がばいばあちゃんの放映後のことでございますけれども、メインロケ地であります淀姫神社の方には、毎日大勢のお客さんが訪れておられます。それから、市の方でもこのロケ地めぐりのツアー造成を行っております。1月から2月まで、これはさきに申しましたけれども、約1,900名の観光客の方が訪れられております。3月以降につきましても、3社の旅行会社がツアーを計画いたしておりまして、これがすべて実施をされますと、約1万名程度のお客様がおいでになるということになっております。

それから、旅館の対応でございますが、ロケ地めぐりの宿泊プランを企画されている旅館は1軒でございます。それから、日帰りのお客様を案内されている旅館は2軒ということでございます。そういうことで、今後がばいばあちゃんがもたらした武雄の知名度とイメージアップを観光面で生かす戦略が課題ということで、旅館、観光業者と一緒に誘客に取り組んでいきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は先ほどの部長答弁ば聞いて、もうがっくりきました。なぜ1軒とか2軒とかこういう数字が出るんだろうかって。本当に議会の多くの皆さんたちの御協力を得てここまで来たわけですね。さっき1万人という話も出ました。それがなぜこうなるのか。私は例えば一つの案として、泉ピン子さんが あの方は鳥嫌いやけんが、食べた弁当、それを例えばがばい弁当というふうに称して、ここに来れば泉ピン子さんが食べた弁当とか、あるいは石田ゆり子さんが食べた食事とか、そういったことで各旅館が出してくれんかというのを切に思うわけですね。そうすることによって点の実績が面になると。それで武雄全体に恩恵、影響が私は及ぶというふうに思っております。ぜひ旅館組合の皆さんたちの奮起を期待したいと思います。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

本当は、今ごろは武雄の旅館さんがばいで 済みません、ちょっと話が変わります。私は酒屋で、商品という物がつくれるわけですね。新発売で何か売りましたって。酒屋ですから、酒の新発売、こういうのを出しましたって、物が売れるんですよ。でも、旅行関係の方は、自分でパックをつくれるわけですね。こういうふうながばい企画をしましたと。単体でもいい、さっき市長が言われた点が面になると。どこでもやったら、それこそまた競争になって、あそこもよかったばってん、こっちもよかばいって、そういうふうな形になってくる。これはもう宿泊業じゃなくて、すべての業者が言われると思うんですね。だから、そういうふうな、例えば、カンコロ学校もそうですし、若木の太楠にしても、いろんなところでこういうのがありますって競ってやらなければ、宿泊業者さんに限らず、いろんな案が出てくると思います。パックも自分でつくれると思います。それを旅行者によって。だから、いろんなことが考えられます。そのために、観光協会さんという組織もこの武雄にはあります。観光協会さん、今後どのような連携をとっていくのか。やっぱり一番、もちろん市がどんどん行くのも構いません。しかし、観光協会という組織もありますので、その組織との連携、さっき言った、そして民との連携も非常に大事なものだと思います。この連携を今後どうやっていくか。そして、このがばい効果とかいろんなものをどうやってつなげていくのか。さっき言いました20数万人を目標50万人にすると。なかなかざっといかんことだと思います。50万人のときは、何で50万人を超えていたかという、焱の博があっていたんですね。そういうあれもありますけれども、今度はよその力じゃなくて、この武雄単体の力で50万人やんなきゃいけないというのは物すごい努力が要ると思いますし、今言った三つの連携が考えられますけれども、今市、観光協会、旅館、どのような連携をとろうと思っていらっしゃるのか、これをお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

数年前のNHKの朝のドラマで、「風のハルカ」という湯布院を舞台にしたドラマがありました。私はあいば見て感動したですね、「風のハルカ」。観光協会の人たちが生き生きとなって、旅館と折衝したりとか、どっか遠くの観光客が来たときにはパンフレットば差し出したりとか、場合によっては一緒に回んさっわけですね。私はあのドラマを見て、これだというふうに実は思っていました。このチャンスがやっとめぐってきた。私は、今回の公益法人の条例一部改正、議案で提出していますけれども、これをやることによって、市のエース級の職員を観光協会に出向させようというふうに思っています。その上で、観光協会と市の観光課、これは営業部観光課になりますけれども表裏一体となって、観光協会の皆さんた

ちが本当に議員の皆さんとか私よりも目立つ存在になって、その人たちが引っ張ってくるんだという、顔の見える観光協会にぜひしていただきたいというふうに思っております。もとよりこれは財団法人ですので、大坪会長の御意向等々もあると思いますけれども、私は市政を預かる者として、強くそれを申し入れたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そういうふうな派遣をして協力関係をつくっていくということですので、ぜひきちんと話し合っ、お互い最大の力を発揮できるような状態でやっていただきたいと思いますし、例えば飯の話、今観光協会のホームページがありますよね。多分維持費で1,000千円ぐらい補助しているんじゃないですかね。そういうのも 例えば、私ホームページをやっていると言いましたね、ブログもやっていますし、時間がちょっとあれば業者に頼んでも自分でできるわけですよ。だから、そういうのも自分でやればそれだけ浮くわけですよ。そういう考え方もあろうと思います。ぜひボタンのかけ違いのないようにきちんと話し合っ、この武雄を引っ張っていただきたいと思います。観光でいうと、今ホームページの話をしました。今私旅行は、もちろん地元の旅行会社というのも使いますが、「じゃらん」とかいろんな旅行会社のやつで見つけていきます。今ホームページというのは観光の顔なんですね。これは総合計画で、市のホームページ1日10万アクセスを目指そうということでやっていますが、観光協会さんはまだこれからでしょうけれども、そういう市のホームページとかなんとかというのはアクセス数、今現在ちょっと把握していないんですけど、今現在幾らなのを10万アクセスぐらいにしたいのか。市長のブログも入っているので、市長のブログを含めてどれぐらい1日アクセスに 10万アクセスといたらもう大変ですよ。私ブログをやっているって言いましたが、私が一番多いときで1日最高950人でした。多いときですよ。少ないときは100人切れます。多いときでそれぐらいいきます。でも、1日10万といううぎ、それはざっとなかですよ。そういうのをどうやって達成する。こら辺をお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、ホームページのリニューアルをする前は、1日平均で300から400あったところがあります。これはトップページの検索数です。改革をした後は大体800から900、その時点で倍増をしています。それで、10万という数字がどこで出たかと別にして、私のブログはまた別に入ってきますので、最も多かったときは1日22万アクセスを記録しています。これは、オイ・ワイ禁止条例のときに、見るのが非常に遅くなったわけですね。で、アクセス幾らだろ

うと思ったら22万、それで、「『がばい効果』視察続々」ということで、ヤフーのトップニュースに飾られた、これで大体11万だったです。ただ、私のブログも仕事ブログですので、1日平均4万から5万あるというふうになっております。ただ、これはかなり変動が激しいので、平均には意味はないと思いますけれども、今そういう状況になっております。

そういう意味で、このブログの果たす役割の大きさです。それともう一つ、「武雄」って検索をすると、やっぱり武雄市がもっと上がってこんばいかんわけですね。今は木村武雄さんとかそういった方が上がっていますので、そういう意味で、もっとアクセス数をふやすような努力をしなければいけない。そういう意味で、観光協会のホームページも行く行くは刷新しようというふうに思っております。その上で、各旅館の方におかれても、初めて行くときというのは、やっぱりホームページを見るわけですね。だから、そういう意味での充実をぜひ期待をしたい。これは月350円ぐらいでできるわけですね、ブログという形式を使えば。旅館名は申し上げませんが、ある旅館ではブログをつくっておられます。これが非常に好評であります。そういう意味で、もう今は簡単に簡潔にできますので、そういった努力を促していきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

さっき言いましたように、ホームページとかそういうのは旅行されるときに武雄の顔になっているんですね。これは武雄の総合計画の審議会で出てきたと思う、10万アクセスぐらいを目標にという、市長のブログはもう超えているみたいですね、10年後を目標だったんですけど。まあいいです。

次、観光の最後のところなんですけれども、お祭りじゃないです、イベント。今度春まつりがあります。で、秋にどのようなイベント、例えば、イベントも単発単発じゃなかなかいけないと思います。やっぱり先ほど言いました、焱の博というイベントがあったから宿泊客が多いと。そして、今観光バスをよく見ます。これは何でかといったら、長崎のランタン祭りというイベントですね。ランタン祭りって、祭りじゃないと思います。イベントがあります。精霊流しというのは祭りの部分に入るかもしれませんが、ランタン祭りというそういうイベントがあります。やはり武雄も効果的なイベントをやらなければいけないだろうと。集客力のある、そして、来た人も楽しめる、参加する者も楽しめる、そういうふうなイベントというやつも考えていかなきゃいけないと思います。

例えば、若木の湖水まつりというイベントを行っています。祭りという名ですけども、一つのイベントです。これはもうずうっとここ20年、去年は雨で中止だったので少なかったんですけども、ずうっとその人気を維持しております。そういうふうな、一番最初に言いましたところがここに来るわけですね。ホワイトデーというやつが企画されて何百億円とい

う効果を上げている。やっぱり企画イベント、そういうやつを考えていかなきゃいけないんじゃないかと。

例えば、武雄の何とかというイベントに来たら、ここで物産まつりもあいよったばい、こっちへ行ったら、温泉通りのところも何かバンコまつりもやっている、そういうふうな集約したイベント、例えば、こっちに行ったらモーターショーもあいよったばいと、文化会館に行ったら何かもあいよったと。そういうふうな集客力があるイベントってやつも、一つはこの観光に大きくプラスになると思いますけれども、その辺のところのアイデアとかなんかがあれば、聞かせていただきたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も基本的には一緒です。それで、ことしの秋ですけれども、まだ関係者が多くて、ここで明らかにするわけにはいきませんが、ある大きなイベントを考えております。その中で物産展であるとか、先ほどおっしゃっていただいたような民間でできる、例えば車ショーとか、そういった一つの大きな祭りに小さなイベントが組み合わされるようなことを考えていきたいというふうには思っております。3月の終わりには議会の皆さんたちにもお話ができるというふうに思っております。

その上で、私は今一人注目しているのは、辰野金吾さんであります。東京駅が大改修になると、それとあわせて、できれば来年か再来年は大辰野金吾展ができないかと。例えば、楼門があります。それとあと、唐津とこれ、できれば共同して開催できればいいなというふうに思っております。唐津も幾つかあるようですので、そういう意味で二つ、広域連携を含めて、まだ唐津市長には申し上げておりませんが、そういうふうに単体でお祭りをするのではなくて、例えば、辰野金吾の場合は関係の深い唐津市さんと組む、あるいはJR東日本と武雄市と唐津と組むとか、そういう大きな意味での広域的、それと、武雄が誇る方々をイベントに組み合わせたいと。だから、何か呼んで来てとかそういう意味ではなくて、本当に武雄がお世話になった方、あるいは武雄で生まれた方を中軸に据えて、そのイベントができないか今検討をしているところであります。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

唐津ということですから、例えば、唐津の観光で思い出すのが、呼子の朝市とかもよくやられています。何で呼子の朝市とかよかかにかと思ったら、朝早かけん地元泊まんさっわけですね。さっき市長がよその自治体からがばいありがとうございますと言われるのは、武雄に来てよそ泊まんさっわけです。呼子の朝市のよかにかと思えば、朝の早かけ

ん、地元泊まってそこに行かんざんた遅うなるけんが、先ほど唐津との共同ということで言われましたので、そういう効果もあると思います。

観光の最後の質問ですけれども、がばいばあちゃんも、そういうような形で成功をおさめていると私も実感しています。実感している中で、その観光協会、そして民間との連携というのがありますけれども、ぜひ周辺部の自治体 自治体というか、周辺部の町がありますよね。例えば、西川登町、武内町、そこの区長会長さんでもいいです、連携して話し合って武雄を売り出していきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

〔市長「朝市の質問じゃなくて……」〕

周辺の町と連携して。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

がばいを中心にして言うと山内、北方、武雄となっておりますので、当然のことながら、地元の区長会、あるいは婦人会、老人会には連携をとっていきたいというふうに思っております。そういう意味で、例えば、婦人会なら婦人会で、そこでお商売ができるようにしていきたいなというふうに思っております。それは石橋議員にもお答えしましたけれども、その気持ちは変わっておりません。

〔25番「朝市は」〕

朝市については、今まだ交渉中ですが、楼門朝市を今企画しております。今までサンデー・ファーマーズマーケットだったり、あるいは私は見たことがありませんけれども、今ハイツの朝市で、これは結構盛況だそうです。そういう意味で、朝市の持つ力というのを再発見しているところでありますし、できればゴールデンウイーク前に楼門朝市ということで開始をしたい。この場所については、楼門の中と、もう一つが、もし警察の許可がおりればの前提ですが、今タクシーがとまっているところがあります。そのタクシーがとまっているところの一部を、警察との協議が調えばそこもやりたいというふうに思っております。この場合は、警察あるいは温泉タクシー株式会社との協議によりますけれども、実行委員会形式でやりたい。そのときに先ほど出ました各種団体にも入っていただいて、オール武雄で楼門朝市を盛り上げていきたいというふうに考えております。そうすることによって、私も奮起を促してばかりだったら気の毒ですので、私としては、そういうことを提案して観光協会、旅館業組合の人と一緒に頑張っていきたいなというふうに思っております。

それと、一つ今考えているのは、野菜ば買ってもだれも持って帰らんですね。しかし、朝市で、例えば楼門の中にチャンポンば売りよんさところのあつですよね。朝は営業しよらんわけです。あそこを例えば貸していただいて、そこで簡単な食事が出ると。自分が買ったものをそこで出すということであれば、非常にこれは集客能力が私は高まると思えます。そ

ういう意味での地産地消も踏まえて、そこですぐ食べられるといったことも提案をしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

観光のところは以上で終わりたいと思います。

続きまして、教育についてです。済みません、駆け足でやっているつもりなんですけれども、つい時間がたってしまって。

教育のところでお伺いするのは、前回に引き続いて2点であります。今度の安倍総理が出された中教審の答申の中で、教員さんの免許の更新も視野に入れていっていると。その中で、その免許の更新は何年ごとで、30時間相当の講習も入れるというふうな形が出ています。そして、私が前回質問しました教職員さんの出張時間ですね、200人の職員さんで年間約8,000時間あると。それで2学期効果はどうなのかというふうなことで心配します。2学期制というのは、あくまで土日休みになった、そして、職員さんたちのゆとりをとる、子供たちを長く見れる。で、教育長が答弁された当初の目的である、子供たちとの触れ合いをじっくり見て、じっくり考え、じっくり学ばせるというふうな部分ですけれども、またそれで免許更新に30時間もかかったら、また先生たちの時間がとられてしまうんじゃないかというような心配があって、何のための2学期制かというふうに思っちゃうわけですね。

まず最初に、2学期制のことからお伺いしたいと思っておりますけれども、まず1点目、今度の新学、山内町、北方町は学期制はどうなのか。そして、前おっしゃられた学期評価委員会というやつで話し合っているということなのですが、その学期評価委員会の構成メンバー、構成はどうなっているのか、これをちょっとお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

学期制につきましては、現在まだ次年度どういう格好で行くという学校長からの報告は受けておりませんが、山内、武雄につきましては、この1年間、教育課程につきまして検討がずっとなされてきているようでございますが、まだ幾分問題もあるというような話も伺っております。それから、学期制の検討委員会につきましては、校長会、教頭会、教務主任会、それから、教科の研究委員会の代表、こういうメンバーで、もちろん市役所の指導主事も入っております。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ということは、山内町、北方町は今までどおり3学期制で行くということですか。

〔教育長「今のところ、まだそのところははっきりと、申請が来ていませんからね」〕

もう3月やけん、間に合わんでしょう。

〔教育長「いや、これから」〕

その学期評価委員会というのは、職員、先生、校長さん、教務主任さんとか、あと、市の主事さんというとも先生ですよ。例えば、その学期評価委員会というのは保護者代表とか有識者というのは入っていないんですか。なぜ入れないのか、その辺をお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

現在やっております学期制評価委員会につきましては、入っておりません。理由ははっきりとなぜということは私も存じないわけですが、いろいろな問題があれば、そういう今議員さん御指摘のような方々についても検討していく必要があるだろうと、そういうふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ばらばらはおかしいですよ。北方町、山内町、旧武雄市がばらばらの2学期制、3学期制をとっているというのは。そして、その2学期制というのをするのは校長先生の権限ですよ。旧武雄市内は2学期制で足並みがそろっていると。山内町、北方町は3学期制でということだったんですけれども、やっぱりここまで違うと、民間ば入れんぎいかんですよ。保護者代表とか有識者とか。報告等を読むと、やっぱり2学期制はもちろんメリットもありますよね。でも、デメリットの部分も言われているのも確かです。そういうのも出ているけど、内々で話し合っただけでこれだこうというのを、やっぱり秘密会議みたいもんですよ。秘密会議じゃなか、自分の範疇の中の。だから、そういう会議にはぜひそういうふうな意見を入れていかなきゃいけない。

例えば12月議会で、私ここで言いましたよね。実際ここで問題になったのかって。問題があればということでおっしゃったけど、問題があるからここで質問をしたわけですね。さっき言いました出張時間、4年前と比べたら出張時間が2,000時間もふえている。2学期制にするメリットは子供たちの触れ合いの時間、先生に余裕があるようにと言いつつ出張時間がふえておるのは、それはちょっと変じゃないですかという質問をしましたよね。そうい

うのは問題にないということですよ、問題があればというのは。だから、そういうふうな形で、ぜひそういう学期検討委員会というのも一般の方を入れていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

各学校での学期制につきましては、学校評議員会等でもいろいろと保護者の皆さんの御意見も承っております。今申しましたように、市では入れておりませんので、検討をさせていただきます。ただ、私は今回、今まで2学期制につきましていろいろ種々述べてまいりました。欠点についても御指摘を受けました。ただ、今回教育再生会議のお話を承る中で、10%の授業時数の確保とか、あるいは学習指導要領の見直し、あるいはいじめ問題等による子供との触れ合い時間の確保と、こういうことを考えていきますというと、やっぱり学期制というものをもう一度山内、北方を含めて真剣に考えていかなきゃならんなあとと思っているのが今の心境でございます。

〔25番「どっちの方向で」〕

これは、授業時数の確保という面からいきますというと、2学期制の方が20時間から30時間程度の授業時数が浮いてきたという報告を受けておりますので、そちらの方でやっぱり考えていく必要があるだろうと、このように思います。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

時間の確保と言いながら、さっき言った出張のやつはどうなるんですか。そしたら、4年前と比べて何千時間もふえているんですよ。旧武雄市だけです。北方町、山内町も含めればもっとですよ。そういう中で言うのは、ちょっと何か私は変だと思うんですけども、市長、いかがお考えですか。今の市の教育委員会じゃなかばってん、市政を預かる者として、学期制の部分で、学期を評価するということで、民間の人を入れるということはいかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的には教育委員会がこれを決めるという前提に立ちながら、政治家として答弁をしたいと思います。

基本的には、民間の皆さんの意見を入れるべきだというふうに思っております。やっぱり身内だけでしたら、その説明責任を果たしたということに私はならないというふうに

思っております。できればメンバーに1人でも2人でも入っていただければ私はありがたいと思っておりますし、そこでいろんなさまざまな意見を闘わせる、それは大事なことだというふうに思っております。

学期制については、私は、それは地域、学校が責任を持って決めるべき話だと思いますので、一律例えば2学期だとか3学期だとかいうことについては、まず学校、そして、教育委員会でよく議論をしてほしいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

教職員の資質の向上または能力の維持という視点から、今回免許法の更新制の問題が出てきたわけでございます。これにつきましては、教職員の資質の維持向上という面から大変必要なことではあります。ただ、議員さん御指摘のように、平常時での研修ということになりますというと、これまで以上に出張がふえるわけでございます。私たち教育長会の話の中では、長期休業の中での研修体系のあり方、これをそういう視点で見直していただきたいと、そういう意見が出ておりますし、県の方にもそのように、教育長会としても話題に出しているということですので話し合いをしているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

同じことを4年前に言ったわけですね。同じ答弁だったですよ。でも、ふえている。

では、次の質問に移ります。（発言する者あり）よかです、もう言うことは言いましたので。

一つだけ、今度県立中学校の分、旧武雄市内から何人上がられたということで、これも前回指摘したんですけれども、子供の運命を本当にくじで決めてよかとかと。どがんしてでもやっぱり私は納得できんわけですね。何人上がったという話は聞きましたけれども、落ちた方もいらっしゃると思うんですよ。それが、やっぱり落ちた方でもそこを目指して一生懸命頑張っていた方もいらっしゃると思います。ですから、県立中学校ですから県の区分にはなるとは思いますけれども、武雄の教育委員会から、くじはおかしいんじゃないかというふうな申し入れはできないものか。もしくは教育長もくじでいいと思っているのか、これをお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

5番議員さんからもそのお話があったと思いますが、実は、本年度行われました県立中学

校の件につきましては、そういうお話を承りましたので、県の教育企画室というところに直接私の方から電話をいたしました。いろいろ見方、考え方はありますが、武雄の場合には、今議員さんおっしゃったように、抽せんというのがベストなのかどうなのかと。より工夫、改善が必要ではないかということがありましたと。このことは教育企画室の方に申し入れをしたところでございます。

県の方からは、いろいろとやり方については県の方でも議論がありましたと。しかし、今のところは、本年度は抽せんという方法でやりましたが、昨年度の抽せんのやり方と本年度の抽せんの場所の設定ですね、それが幾分変わったそうでございます。私も中身については十分存じていませんけれども、そういうことでございました。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

やっぱりどがん考えても、子供の運命ばくじで決めるとはようなかですよね。ぜひ武雄の教育委員会からも、例えば、県内の教育長会議というのもあっていると思います。そういう中でもきちんと発言して要望を言っていただきたいと思います。

では、最後の周辺部対策、これも簡潔にいきたいと思います。

4番議員が質問されました周辺部のいろんな移住策で、NPOを中心にやっていくということを読みました。そういう中で一つ気になったのが、NPOさんはもちろん頑張られています。頑張られていますけれども、やっぱり地域としても応援しなきゃいけない。地域としても応援しなきゃいけないけど、こちらの行政の方と話し合っているいろんなことをやっていると思いますけれども、地域、例えば、若木町にはもちろん区長会もありますし、振興協議会というのもあります。そこの話し合いというのは、全く今市とはできていないわけですね。というのは、例えば、そこもNPOさんと協力してということでは話し合われていると思うんですけれども、そういうふうな今指定を受けた各町にはそういうふうな町づくり団体もしくは区長会があると思います。そういうところとも三者きちんと話し合っ、調整をとりながらやっていただきたいですけれども、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今後よく調整をしていきたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひスムーズにいかせるために、地域のそういう協議会とか区長会さんと三者で話し合っ

てやっていただきたいと思います。

それでは、最後の質問に移させていただきます。

総合計画の中に、各町が出すコミュニティープランというのがあります。各町独自で考えてこういうのをしていただきたい、例えば、若木町は若木町でこういうのをしていただきたい、武内町は武内町でこういうのをしていただきたい、いろんなコミュニティープランが出ていると思います。北方町、山内町が新市になってまだ出ていないので、ほかの町は出ているということでしたけれども、もしよければそれを一律に、その計画ができたのは多分平成13年ですよね。13年当時ですから、もう13年前のやつを今度の総合計画にぶつけるんじゃなくて、新しく各町にそういうコミュニティープランというやつをきちんと再度作成してもらえないかというふうなことをしていただけないだろうかというのが最後の質問になります。よろしくをお願いします。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

先ほどのコミュニティープランにつきましては、旧武雄市では7町つくっておりますので、現在、今回のマスタープランの策定にあわせまして、北方、山内含めましてその策定について今お願いをしておるところです。今改定中、作成中でございます。

〔25番「では、お願いするということですね、新しくつくと」〕

やっております。お願いして、今現在、公民館、あるいは市を中心にその議論をやらせているということでございます。

〔25番「議長、終わります」〕